

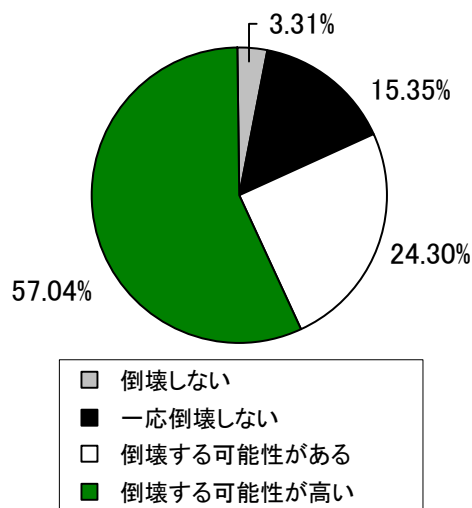
床面積で見る耐震性の違い (平成18年4月1日～平成18年11月30日/木耐協調べ)

平成18年4月1日から平成18年11月30日まで(8ヶ月)に木耐協で実施した耐震診断2,364件の耐震診断結果について、1階床面積の平均値(76㎡)で対象を分け、分析したものです。

■ 平均値(76㎡)よりも狭い場合

倒壊しない	47	3.31%
一応倒壊しない	218	15.35%
倒壊する可能性がある	345	24.30%
倒壊する可能性が高い	810	57.04%
合計	1,420	

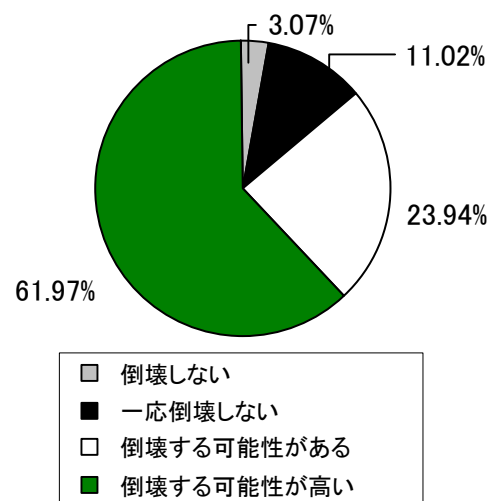
(平成18年4月1日～平成18年11月30日)



■ 平均値(76㎡)よりも広い場合

倒壊しない	29	3.07%
一応倒壊しない	104	11.02%
倒壊する可能性がある	226	23.94%
倒壊する可能性が高い	585	61.97%
合計	944	

(平成18年4月1日～平成18年11月30日)



■ 広い家ほど耐震性に注意が必要

診断を行った住宅を床面積の平均値(76㎡)で分けて、総合評点が1.0を下回る住宅の割合をみると、平均値より狭い場合で81.34%、広い場合で85.91%となり、広い住宅の方が耐震性が約5ポイント下回ることがわかります。

広い住宅においては各部屋の間取りも広く取られており、結果として壁の量・バランスといった点が耐震性に影響を及ぼしていると思われます。